

特集

トップ
インタビュー

人そして地域活力の創出による 地域力あふれる街 肝付



TOP
Interview

肝付町長 永野 和行

肝付町は、大隅半島の南東部に位置し、JAXA内之浦宇宙空間観測所があるロケットの町として全国に知られている。笑顔と活気があふれ、人々が住みたいと思えるまちづくりを目指している同町だが、どのように取り組んでおられるのだろうか。永野和行町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

「しごと」「ひとの流れ」「若い世代に希望」をつくり、安心して元気に暮らせるまち

— 肝付町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください。

本町は、高齢化に伴い各地域における医療・介護・予防・生活支援等のサービス不足が懸念されており、要介護リスクが高い人や認知症を持つ人の増加など、地域において働く現役世代が減少し、地域コミュニティ機能の低下、地域活力の衰退が問題

となっております。しかしながら「まちづくりに対する住民アンケート」では、医療・健康づくり体制の充実が満足度1位となっております。町長になり4期13年目になりましたが、町民が充実し、健康に暮らせる町づくりへの取り組みを評価していただけたと感じています。

私の信条は「まっすぐに」であり、目標へ向かうため、その意識や取り組みを切れ目なく継続するために第1期地域創生戦略には「仕事をつくり安心して働けるようにする」「この町の地域資源を活用し新たな人の流れをつくり観光振興や人材の交流や育成を行う」「結婚・妊娠・出産・子育てが安心してできる環境をつくる」「人口減少とともに失われていく地域コミュニティを新たな生活様式や社会構造の変化に伴う価値観に対応した地域づくりを進める」以上の4つの基本目標をつくり現在の第2期地域創生戦略へも「まっすぐに」引き継がれております。

健康に重点を置いた政策としては、



健康増進事業「足・腰ぴんぴん若返り教室」毎月3回、高山やぶさめ館で開催毎回20名程度参加(どなたでも参加可能)

第2次肝付町総合計画の中で「医療・健康づくり体制の充実」として、まず第1に「地域医療体制の充実」として今後増加が見込まれる在宅医療の需要に対応するため、訪問診療や訪問看護など在宅医療提供体制の充実を図ります。

第2に「健康寿命の延伸」を目指して、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施により、疾病の発症・重症化予防から介護予防まで、切れ目のない事業を展開します。

力をいれておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

特定健診の受診率60%を目標に、



生活習慣病予防食
毎月、食生活改善推進員の勉強会にて調理し、「栄養士さんが教える生活習慣予防食」というタイトルで広報誌に連載。

人工知能を活用し、未受診者の健康意識等の特性に合わせた受診勧奨を行っています。

特定健診の受診率向上により、自覚症状がほとんどないといわれる生活習慣病を発見し、保健指導及び栄養指導を行うことで、将来的な医療費の抑制につながることを期待しています。

また、今年度から19歳から39歳までの方へ特定健診と同等程度の健診を行います。現代の食を取り巻く環境を考えると、40歳以前に生活習慣病を発症し、症状が進行してしまうケースが多い事、生活習慣の改善は年齢を重ねるごとに難しくなることから、より早期での介入が大きな効果につながると考えています。

がると考えています。

また毎月発行している町広報誌では「元気な身体は毎日の食事が作る」をテーマに、管理栄養士監修による主食・主菜・副菜をバランスよくとり、生活習慣病を予防するためのレシピを掲載しています。

— 国保における問題点や課題についてのお考えをお聞かせください

安定した財政運営のため平成30年度から鹿児島県が財政運営の責任主体となり保険給付に必要な費用を市町村に交付することになり、決算補填等目的の法定外繰入金を行う市町村数も少なくなりました。

しかしながら、本町は国保加入者の年齢構成が高いため、一人当たりの医療費は増加傾向であり、併せて所得水準が低いために法定軽減世帯が多く、保険税(料)収は下がる一方という問題があります。そのため、第2期鹿児島県国保運営方針にあるように令和5年度までには年齢構成や医療費水準に差があり、保険料の算定方式も異なる市町村の意見を取りまとめ保険税(料)水準の統一に向けた環境整備を行わなければならないと考えています。

食生活改善で気力回復

— 町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃるごことがありましたらお聞かせください

以前重い病気を患った際、まさか自分が病気になるなんて思いもせず、発見した時には、これからのようになるか不安でした。そんな時、家族の支えが私に病気に打ち勝つ気力を与えてくれ、闘病中、「元気になったら、自分を支えてくれた大事な家族を悲しませることがないよう健康に気をつけたい生活に取り組みよう」と自分に誓いました。

まずは食生活改善から始めようと、妻と相談して白米を玄米に変え、食べの量にも気をつけるようになりました。その結果以前より若返ったように気力がみなぎっており、今では、毎朝40分ほどのウォーキングも習慣となつていきます。

食生活改善は今までの食生活スタイルを大きく変えることであり大変ですが、私の好きなことばは「チャレンジでの失敗を恐れるな、何もしないことを恐れよ」です。食生活改善という大きなチャレンジは、私にとってはごく自然なことであり、今では心地よいものに少しずつ変化しております。あとは継続していくことで力となっていくことでしょう。



食生活改善推進員の勉強会での調理風景

幸い、早期発見ですぐに処置ができたのも、30代の頃から欠かさず健診を受けてきたからこそです。早期発見の大切さを身をもって知りましたので、皆さんにもぜひ特定健診等を受診していただきたいと思えます。

—最後に何か肝付町のPRがございましたらお聞かせください

急激に減少してきた農業従事者の確保対策として、肝付町農業振興センターで研修事業や雇用就業事業の募集及び育成を行っております。新規就農研修支援事業として新規就農希望者を受け入れ、センターが管理する研修農場等で栽培技術・経営に関する実践的な研修を行っております。また雇用就業支援事業として町

内で新規に独立就農する強い意志を持つ方を嘱託職員として雇用し、多品目の実践的な作業従事等により就農に必要な知識と経験を身に付けられるようにしております。

また「きもつきブランド」として地域固有の柑橘類である辺塚だいたいの需要拡大に向けた取り組みを行っております。町の推進品目として位置づけ、関係機関と連携して生産の振興や青果及び加工品の販路拡大、新商品の開発等を支援しております。令和3年には、キリンビール(株)の商品と辺塚だいたいのタイアップ企画「キリン氷結ストロング 鹿児島産辺塚だいたい」の発売もすることができました。同じように辺塚だいたいの搾汁残渣を餌に混ぜ込み育てたカンパチ「辺塚だいたいカンパチ」が、かごしまのお魚ブランドとして認定されましたので今後は全国へ販路の拡大、認知度の向上を目指していきます。

次に肝付町には、JAXAによる本土唯一のロケット発射場「内之浦宇宙空間観測所」があり、重要な地域資源として位置付けております。そこで、関連資源を最大限に活用した取り組みとして「宇宙関連資源を活用した観光振興」を推進しております。

打ち上げ場所を探されていた鹿児島大学を中心とする「鹿児島ハイブ



新規就農研修
平成26年10月に設立した肝付町農業振興センターでの新規就農研修の様子。現在9名の研修生が日々就農にむけて農業を学んでいる。

リッドロケット研究会」と、民間の力を用いた宇宙関連事業の誘致を目指していた肝付町との思いが一つになって、協力体制を築き、肝付町で打上げることが決定しました。鹿児島ロケット2号機から、共催で実施し、町としては、「打上げ環境整備」、「地域住民や関係団体への周知・説明」、「見学者の対応」や「宇宙の町・肝付町のPR」を行っております。今後も肝付町は鹿児島ハイブリッドロケット研究会や関係機関と綿密に連携して、このプロジェクトの成功に向けて取り組んでいきます。長期的な展望では、民間のロケット研究や宇宙開発に積極的に協力し、肝付町の発

展や宇宙関連事業の開拓に繋がってきたいと考えております。
最後に、肝付町では、住宅支援や子育て支援にも力を入れています。移住先にもお勧めです。やぶさめとロケットの町、肝付町へ是非お越しください、美しい海岸線、そして山と海の豊かな自然を感じてほしいです。是非お越しください。



鹿児島ロケット3号機打上げ
令和4年3月16日に肝付町辺塚海岸にて打上げた鹿児島ロケット3号機の準備風景。オレンジ色がランチャー(発射台)で、黒色がロケット(全長約2.6m)。鹿児島大学を中心に産学官連携で取り組んでいる。